

心理学の基礎<1>

第3回 心理学の方法

担当／浜村 俊傑

本日の授業内容

1. 前回のまとめ
2. レスポンスシートへの回答
3. 今日の目的と到達目標
4. 心理学の方法論
5. 量的研究と質的研究
6. 信頼性と妥当性

前回のまとめ

- ❖心理学設立前の「こころ」についての研究は主に哲学者、医学者、生理学者によってなされていた
- ❖科学としての心理学の成立は1879年**ヴント**のライプチヒ大学の**心理学実験室の創設**
- ❖その後、**行動心理学**、**ゲシュタルト心理学**、**精神分析学**という大きな潮流に分岐した
- ❖近年では生体の行動を情報処理システムとして捉える**認知心理学**が台頭

レスポンスシートへの回答

今日の目的と到達目標

目的

- ❖心理学の研究方法を学び、それぞれの特徴と限界を把握する

到達目標

- ❖心理学研究においてどのような手法が適切か把握することができる
- ❖信頼性と妥当性の重要性を説明できる

心理学の方法論

- ❖ どのようにして目には見えない「こころ」を明らかにすべきか？
- ❖ こころに関連するものを**構成概念**として整理する
- ❖ 「感情」「意識」「記憶」「言語」等・・・
- ❖ 「もの」として存在しないが共通認識されている
- ❖ 「こころ」自体も構成概念である

心理学の方法論

- ❖ 構成概念を理解，整理していくのが心理学研究
- ❖ 複雑であるが故に様々な方法が存在する
- ❖ 以下，現在確立されている方法

調査法
(質問紙法)

実験法

観察法

面接法

検査法 (心理
テスト法)

生理学的方法

調査法：質問紙法

主な目的

- ❖ 2つ以上の構成概念の関係性を明らかにする

手法

- ❖ 質問紙（アンケート）を配布して答えてもらう
- ❖ 標本とサンプリングが重要

長所

- ❖ 比較的多数のデータを収集しやすい、短時間で大勢に実施できる

限界

- ❖ 因果関係を証明することは難しい、文字を理解できる相手からしかデータ収集ができない

調査法：質問紙法

例／幸福度と自尊心の関係を調べたい

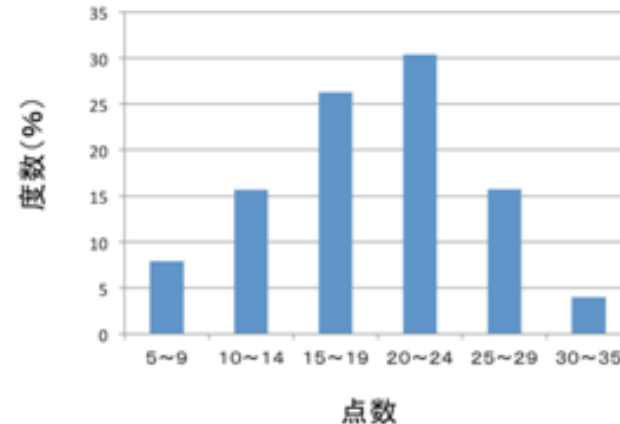
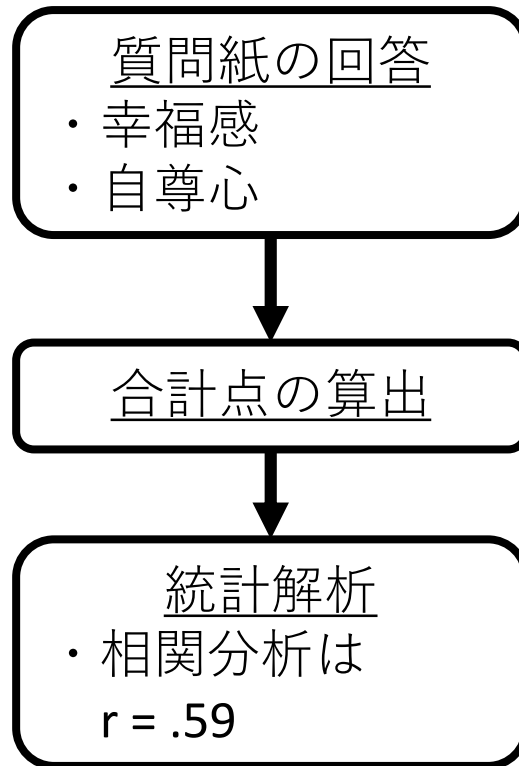
幸福度の測定はSatisfaction with Life Scaleを使用
5項目7件法

1. ほとんどの面で、私の人生は私の理想に近い	1	2	3	4	5	6	7
2. 私の人生は、とてもすばらしい状態だ	1	2	3	4	5	6	7
3. 私は自分の人生に満足している	1	2	3	4	5	6	7
4. 私はこれまで、自分の人生に求める大切なものを得てきた	1	2	3	4	5	6	7
5. もう一度人生をやり直せるとしても、ほとんど何も変えないだろう	1	2	3	4	5	6	7

- 1 全くそう思わない、
- 2 ほとんどそう思わない
- 3 あまりそう思わない
- 4 どちらともいえない
- 5 すこしそう思う
- 6 かなりそう思う
- 7 とてもそう思う

合計点を算出して
その人の幸福度を
数値化

調査法：質問紙法



(参考までに)

$r \pm .10$ 小程度

$r \pm .30$ 中程度

$r \pm .50$ 高程度

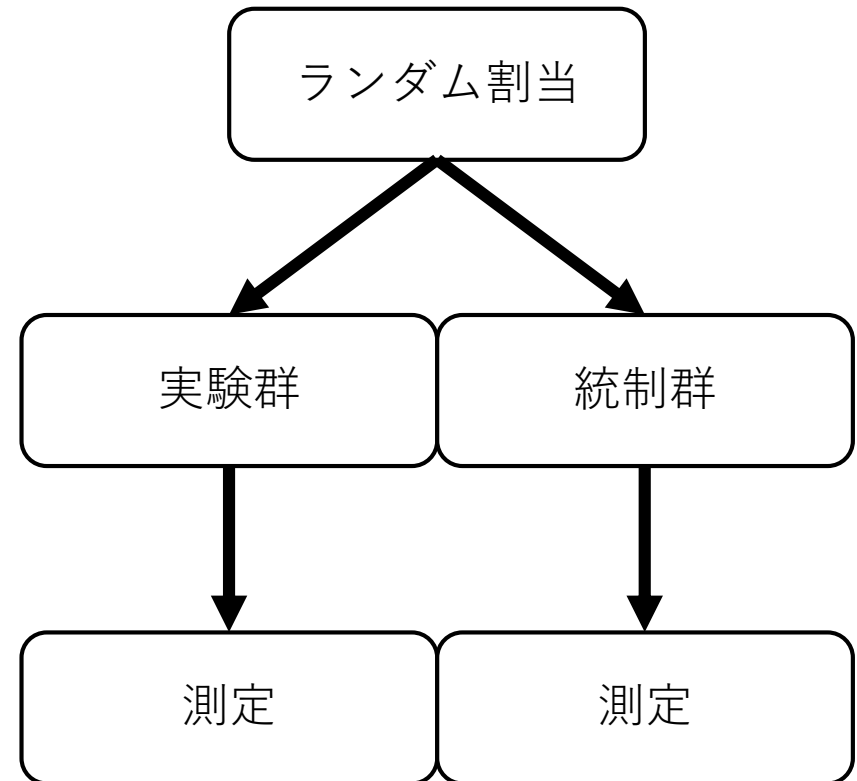
実験法

主な目的

- ❖ 実験者が意図的に変更（操作）を加え，その違いから反応の違い（因果関係）を検証する

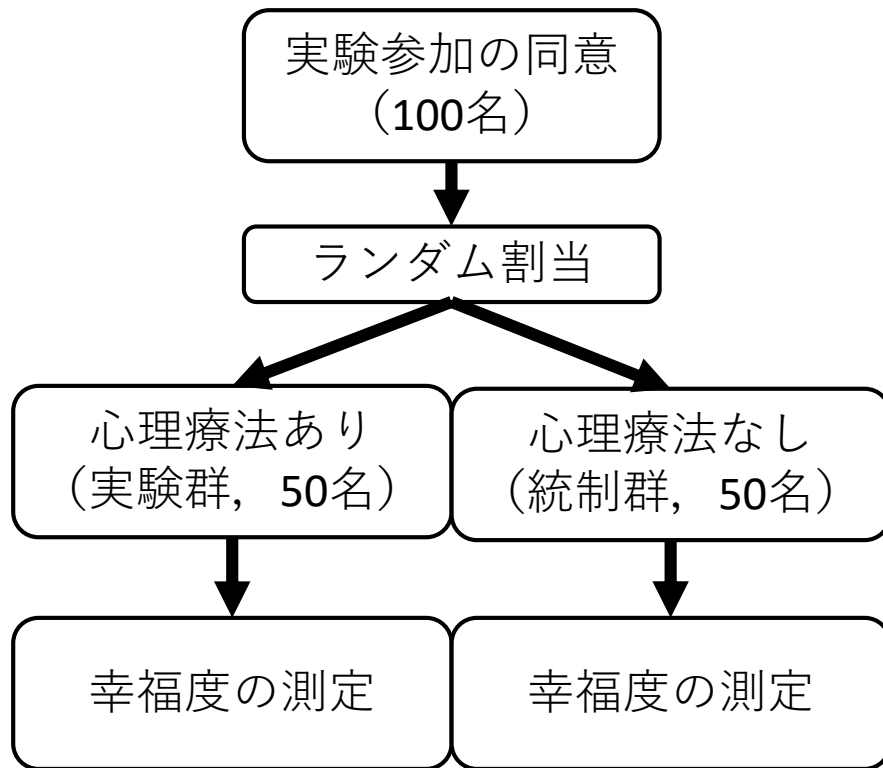
手法

- ❖ 研究協力者を2群以上にランダムに割当
- ❖ 各群に異なる処置を施す
- ❖ 処置の後に測りたいものを測定して処置の影響を比べる



実験法

例／新しい心理療法の幸福度への効果を調べたい



長所

❖因果関係をより明確に検討可能

限界

❖倫理的に操作ができないものが多く存在する（虐待など）

❖現実場面でも同じことがいえるのか疑問が残る

【実験の重要ポイント】

2群の幸福度の違いは心理療法の影響であると因果関係を検証できる

(行動) 観察法

主な目的

- ❖ 研究目的に沿って観察可能な行動をリストアップして、その行動を日常場面において観察・記録する

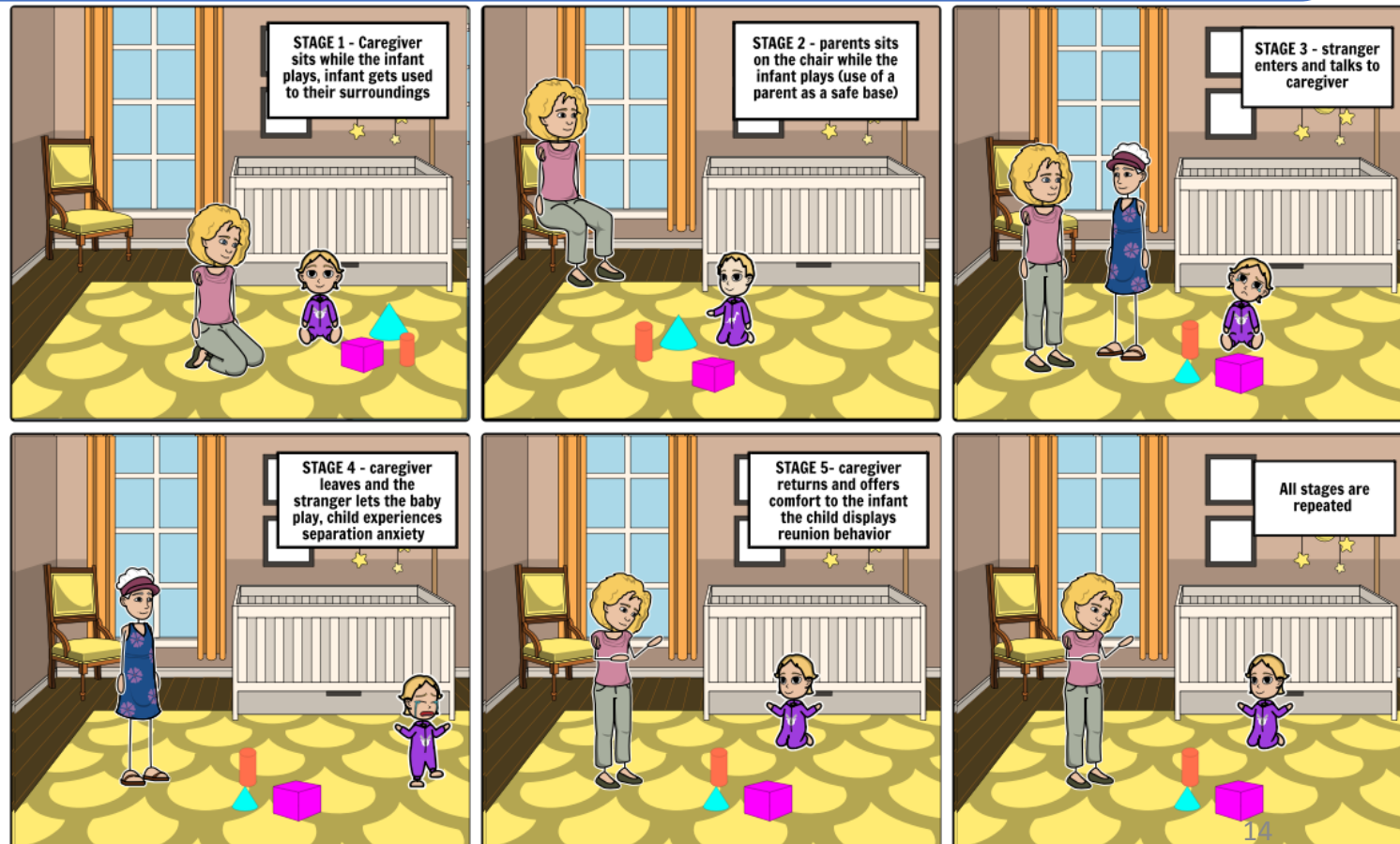
手法

- ❖ 画像・音声の録音, その場での観察 (客観的)
- ❖ 日誌法 (解釈学的)
- ❖ アクション・リサーチ (関与しながらの観察)

(行動) 観察法

例／子どものアタッチメントを調べる →ストレンジ・シチュエーション法

子どもが親と分離した時の反応を観察し、親子の関係性を調べる



(行動) 観察法

長所

- ❖ 尋ねても答えてもらえない場合にも実施できる、日常生活で自然に生じる現象を対象にできる

限界

- ❖ 偶然的要素が入り込みやすく、同じ条件を再現しにくい
- ❖ 時間がかかる場合が多い
- ❖ 観察により行動が不自然になる可能性がある

面接法

主な目的

- ❖ 仮説の検証（インタビュー）や問題の解決（心理療法）

手法

- ❖ 1人または少数の対象者との会話を通してデータを収集する

長所

- ❖ 対象者が文字を読めずとも実施可能、質問内容をその場で補足・変更でき、深い内容が探れる

限界

- ❖ 誘導尋問の危険性、データ収集に長時間かかる、少人数の場合結果の一般化の問題

面接法

例／喪失体験

1. インタビュー（録音）
2. 文字起こし
3. カテゴリ化（感情や考えの性質をまとめる）
4. カテゴリの順序（喪失，否定，怒り，交渉，うつ，受容）
5. 喪失体験のプロセスの生成

検査法（心理テスト法）

主な目的

- ❖ 個人の状態や能力を調べる

手法

- ❖ 刺激を与えて反応を測定する

長所

- ❖ 個人内の特徴の把握や問題解決の支援に役立てる
（臨床的応用性が高い）

限界

- ❖ 時間がかかる

検査法（心理テスト法）

例／子どもの知能を測りたい
→児童向けウェクスラー式知能検査



生理学的方法

主な目的

- ❖ 心理的側面を生理面から測定する

手法

- ❖ 脳波, 唾液, 心拍数, 皮膚電気反射
- ❖ fMRI, EEG, NIRS

長所

- ❖ 客観的, 言葉にできない心理状態を測定できる

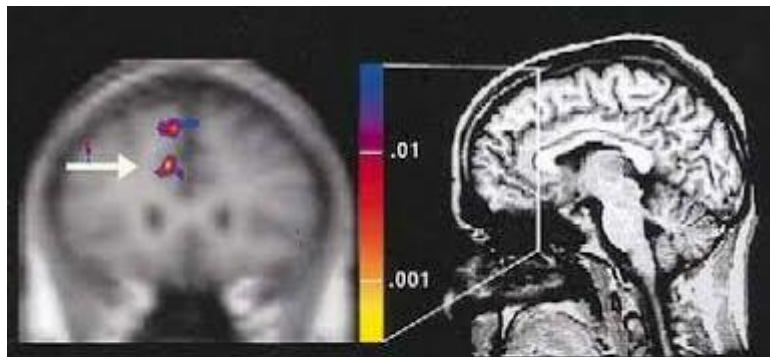
限界

- ❖ 解釈が難しい, 周りの刺激に影響を受けやすい

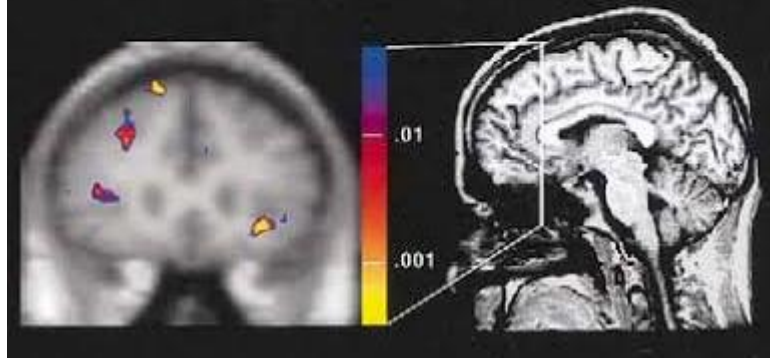
生理学的方法

例／トラウマ体験による影響
→fMRIでの血流の測定

PTSDなし



PTSDあり



感情に関する刺激への反応がPTSDありとPTSDなしで異なる

量的研究と質的研究

- ❖これまで学んだ心理学の方法論を2つに分類すると **量的研究と質的研究**がある
- ❖これまでの研究は**量的研究が圧倒的に多い**が、近年は実証主義から社会構成主義へのパラダイムシフトの影響から、質的研究の重要性が認識されている
- ❖絶対的から相対的な捉え方へ

量的研究 (Quantitative Study)

特徴

- ❖ 数量的なデータを用いて分析を行う

よく使われる手法

- ❖ 調査法, 実験, 生理学的方法

適した研究内容

- ❖ 仮説の検証
- ❖ すでに検討されている変数間の関係を知りたい場合

統計解析ソフトウェア

- ❖ R, Python, Excel, Mplus, SPSS, Stata, SAS

特徴

- ❖ 最終的には因果関係の推定が目的、大量データを分析ソフト(SPSSなど)で分析する場合が多い

注意点

- ❖ サンプル全体を分析するので個別に細かく分析できない

質的研究 (Qualitative Study)

特徴

- ❖ 言語的なデータを用いて分析を行う

データの収集例

- ❖ 観察法, 面接法, 検査法 (質問紙法の自由記述、インタビュー、フィールドワーク、事例研究など)

適した研究内容

- ❖ 仮説の生成
- ❖ 理論自体の構築が必要な現象
- ❖ ストーリーなどプロセスが含まれる現象

特徴

- ❖ 自然な状況や文脈の重視、時間的文脈の重視、当事者の多様な視点の重視

注意点

- ❖ 方法の客観性、結果の一般化可能性

信頼性と妥当性

ポイント

- ❖ 概念の測定における評価基準として信頼性と妥当性が使われる

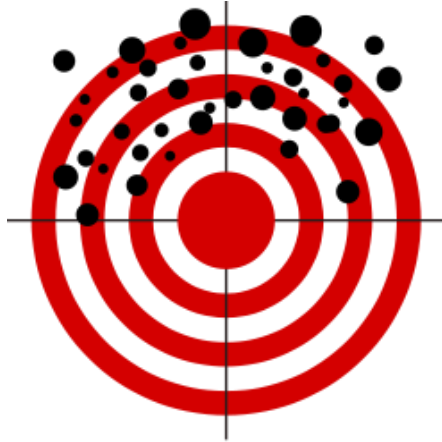
信頼性 (reliability)

- ❖ 毎回安定して同じものを測定しているか？

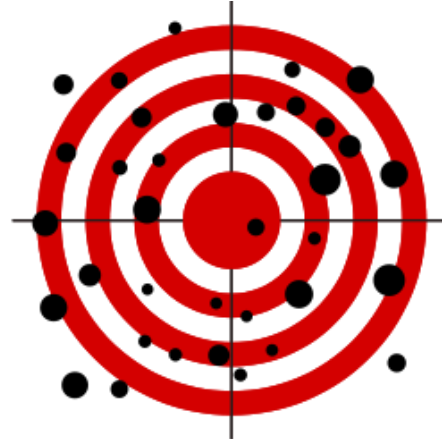
妥当性 (validity)

- ❖ 測りたいものをきちんと測っているか？

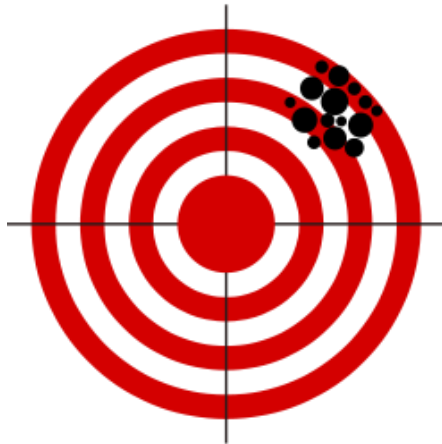
信頼性と妥当性



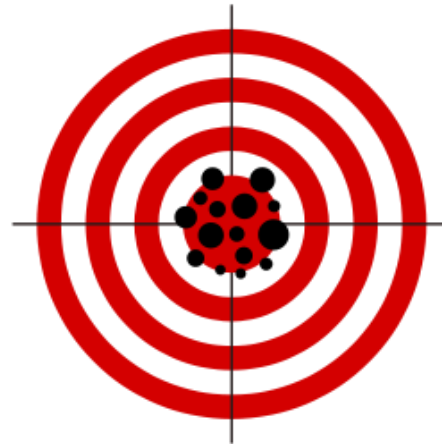
信頼性=低 妥当性=低



信頼性=低 妥当性=高



信頼性=高 妥当性=低



信頼性=高 妥当性=高

https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Reliability_and_validity.svg

第3回のまとめ

- ❖心理学は構成概念を構築して整理，理解している
- ❖研究方法には「調査法」「実験法」「観察法」「面接法」「検査法」「生理学的方法」がある
- ❖心理学の研究方法は量的研究と質的研究に分けられる
- ❖信頼性は，その概念を安定して測定しているか
- ❖妥当性は，その概念を正確に測定しているか

今日の目的と到達目標

目的

- ❖心理学の研究方法を学び、それぞれの特徴と限界を把握する

到達目標

- ❖心理学研究においてどのような手法が適切か把握することができる
- ❖信頼性と妥当性の重要性を説明できる

今週のレスポンスシート

1. 調べてみたい心理学の構成概念を1つ選んで、授業で紹介した研究法でどのようにその研究課題を追求できるか書いてみてください。その方法と強みと限界点は何ですか？
2. 疑問、授業に関する要望など

引用文献

角野. (1994) . 人生に対する満足尺度(the Satisfaction With Life Scale [SWLS])日本版作成の試み. 日本教育心理学会第36回総会発表論文集.

前野隆司. (2019) . 幸福度の推奨アンケート (SWLS、幸せの4因子など) について.

無藤 隆・森 敏昭・遠藤 由美. (2018). 心理学 Psychology; Science of Heart and Mind (新版) 有斐閣

Shin, L. M., Whalen, P. J., Pitman, R. K., Bush, G., Macklin, M. L., Lasko, N. B., ... & Rauch, S. L. (2001). An fMRI study of anterior cingulate function in posttraumatic stress disorder. *Biological psychiatry*, 50(12), 932-942.